



結核しずおか

58号 2026年4月24日

発行・編集

公益財団法人 静岡県結核予防会
〒420-0915
静岡市葵区南瀬名町6-20
TEL 054-261-2512
FAX 054-261-9474
Eメール tb-shizuoka@gaea.ocn.ne.jp
HP www.jata-shizuoka.org



巻頭言

公益財団法人静岡県結核予防会は結核予防会静岡県支部とし、1940年発足以来結核を中心とする疾病の予防思想の普及事業の啓発に努めてきました。1954年に法人認可が下り、「結核を中心とする疾病の予防のための健康診断事業」が本格的に始まり、結核・肺がんのX線、喀痰検査を軸に結核患者の接触者検診、住民検診、学校検診、事業所検診、施設検診を実施し、静岡県民の皆様の健康向上にお役に立てるよう事業に取り組んでまいりました。本予防会の事業は市町村自治体職員の皆様、各事業所、団体の保健担当者の皆様方のご協力と実地医家先生方のお力添え無くしては日々の業務も立ち行きません。皆様方の日頃のご理解とご協力にはこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。



医師会、保健所、行政機関をはじめ地域の皆様の積年の努力によりわが国の結核罹患率は低下を続け、2021年には全国、静岡県、静岡市ともにWHOの定める低蔓延国の基準を達成したところでしたが、2022年以降は本県並びに静岡市も足踏み状態です。静岡市では2024年の登録患者数56人から2025年は88人に増加した結果、罹患率は13.2と上昇しました。これは3月に実施した令和7年度静岡市保健所コホート検討会の報告ですが、静岡県、全国のサーベイランス事業報告（速報）においても同様の傾向が報告されています。静岡市では2025年に発見された市内での集団感染事件の影響が最も大きいと思料されますが、本件のみで結核患者増加の理由は説明できません。静岡県と静岡市は共にこれまで全国平均を下回ることはありませんでしたが、それでも岩手、山形県等からみて約2倍の患者登録があります。また最大と最小登録数の府県には約3倍以上の開きがあります。稠密な人口、人の移動、産業構造等の要因もあると思われますが、早くから先進国並みの低蔓延状態を達成している地域では保健担当者、健診体制と医療体制のネットワークが上手く働いているように思われます。

2025年度の静岡市保健所主催の結核コホート検討会においても70歳代以上の高齢者層と20歳代の青年層に患者登録が集積して患者年齢層が二極化している状況が報告されました。

高齢者層は青年期に結核感染の既往がある方が高齢になって抵抗力減弱、低栄養状態等の要因で発病に至ったと思料されますが、青年層はその殆どが外国出生者であることが特徴であり、これは全国に共通してみられる現象であることは令和7年度結核予防全国大会においても報告されています。また高齢者の場合、約70%は通院中に判明しており、健診での発見例は少数であることも全国共通の現象です。我が国では全国国民保険診療が1960年代から普及しており、自覚症状の有無に係らず胸部X線撮影を実施することが多いためと思料されますが、疾病があっても通院履歴の無い方や施設通所をされている方等は、胸部X線撮影の機会に恵まれず病状が進行していたという事例があるという報告も同コホート検討会では指摘されています。

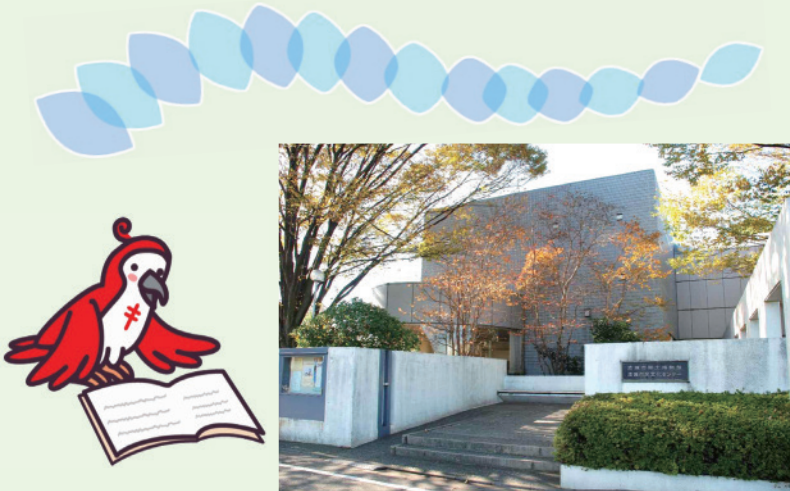
静岡市の2025年10月の集団感染は入国間もない20歳代青年が感染源でしたが、12年ほど前2014年に発生した集団感染は市内大規模施設内でみられたということでした。このように狭い空間で共同生活をしているところでは、一度大量排菌者が発生すると周辺の人々の健康に甚大な健康被害をもたらすことから対象者は必ず年1回健診を受けて頂き、管理者は健診機関、学校医や産業医、保健所との連携を密にとって頂きたい存じます。

公益財団法人静岡県結核予防会 診療所所長 大滝 光生

令和7年9月18日、富士宮支部の研修で清瀬市を訪れた。清瀬と言えば結核と闘った地である。結核という病気に対する差別と偏見のあった約100年前、結核病院の開設、多くの人々が療養した歴史があり現在は感染症に於ては重要な情報発信の都市である。

最初に郷土博物館を見学した。特別展では、若き日に結核と向き合う日々を清瀬で過ごしたふたりの作家、小説家の吉行淳之介、俳人の古賀まり子の「生誕100年記念」の文学展示がされていた。昭和20年代後半の清瀬の記録である。文学者からみた結核については興味深く貴重な展示だと思った。他の展示の中に俳人、石田波郷の色紙や随筆集を見つけた。師系を同じくする私は感激、刻を忘れて見入っていた。忘れられない一句。

「遠く病めば銀河は長し清瀬村」 石田波郷



次の見学は結核予防会の複十字病院と結核研究所。院長先生の紹介で病院の始まり、現在に至るまでの経過、主な認定機能、年度別の入院患者数、外国人の症例を説明していただいた。院長先生の案内で病棟へ。病室の入口の扉は今も二重扉、看護師さんの付けているマスクは空気のもれない密なる素材、完全防備での作業の苦労話も聞く、大変な仕事だと思う。

結核研究所では肺結核、肺疾患のレントゲン写真を見る。目をそむけたくなる程でおそろしい。研究所では基礎的な研究、全国からの検診調査、国際研究、結核対策としての国連でのメッセージ等々、国内、海外の医師、看護師、放射線技師の研修の実施、育成に力をそそいでいる。特に世界的に拡大したコロナの新しいウイルスへの対応、世界的な結核患者の増加等多くの課題があり、この研究所が日本の感染症に対応している話に納得した。

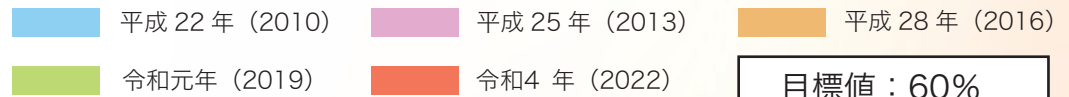
清瀬を訪ねて思うことはこの地で命を落とした人々が多くいた事は忘れてはならない。特に若い世代が多い事に胸が痛む。清瀬の地は緑豊かな空気もきれいな土地、「大気、安静、栄養」のみの療法だった清瀬、今は病院の数では結核の専門だけでも三ヶ所、看護大学、看護学校等「医療と福祉のまち」を目ざしている清瀬市に心より感謝、応援をしたいと思う。

結核が不治の病から「薬を飲めば治る」時代になっても一日に28人が発生、4人が命を落としている日本の今の結核の現状、過去の病気ではないと正しい知識を身につけ結核の予防、普及には国、県、市の支援が必要になる。これから医療に従事する世代には結核と闘い情報を発信している清瀬を訪ね結核の事を学んでほしいと願っている。



「10分の検診が、未来の10年を守る。」

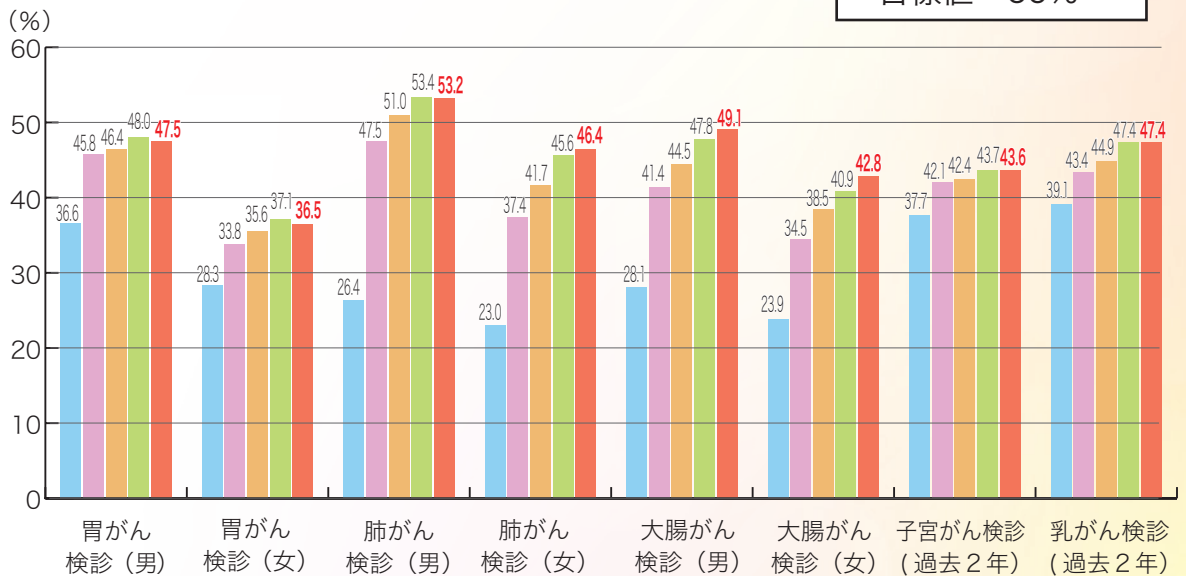
＊＊がんは早期発見で守れる病気です。忙しいあなたこそ、検診を。＊＊



【①がん検診の受診率】

男性：4～5割
 女性：3～4割
 生涯でがんになる
 確率：約50%

☞ 受けない理由の
 1位は「時間がない」
 ☞ でも、検査は
 10～20分程度で
 終わるものがほとんど。



○胃がん、肺がん、大腸がん、乳がんは40歳～69歳、子宮がんは(子宮頸がん)は20歳～69歳
 ○健診等(健康診断、健康診査及び人間ドック)の中で受診したものも含む。
 ○平成28年調査は、熊本県を除いたデータである。

出典：2022年国民生活基礎調査

【②早期発見の重要性】

がんの5年相対生存率(ステージ別)

【胃がん】	I期：82.0%	II期：60.2%	III期：37.4%	IV期：5.8%
【肺がん】	I期：60～80%	II期：40～55%	III期：15～30%	IV期：5%前後
【大腸がん】	I期：83.1%	II期：75.6%	III期：68.7%	IV期：17.0%
【子宮頸がん】	I期：90%以上	II期：70～80%	III期：40～60%	IV期：15%前後
【乳がん】	I期：99%	II期：95%前後	III期：80%前後	IV期：40%前後

【③住民検診で受けられるがん検診】

各種がん検診の費用は無料～数千円。短時間で受けられます。「症状がなくても、検診があなたを守ります。」今年こそ、検診へ。



【④生活習慣と予防】

「今日からできる、がん予防の5つの習慣」

- 【① 禁煙】 喫煙・受動喫煙は多くのがんリスクを上げます。
- 【② 節度ある飲酒】 1日の目安：アルコール23g (ビール大瓶1本、日本酒1合など)
- 【③ 食生活の見直し】 塩分：男性8g未満/女性7g未満
 野菜・果物を積極的に
 熱すぎる飲食物は避ける
- 【④ 適度な運動】 散歩・早歩きなどを1日60分
- 【⑤ 適正体重の維持】 中高年男性：BMI 21～27 中高年女性：BMI 21～25

「未来の自分のために、今日できること。」

がん検診は、あなたの命を守る大切な習慣です。



複十字シール募金にご協力 ありがとうございます。

募金総額

2,995,839 円

結核予防会では、結核を中心とした胸の病気をなくして、健康で明るい社会をつくるための「複十字シール運動」を実施し、募金活動を行うとともに病気への理解を広め、予防の大切さを伝えています。

「複十字シール募金」の活動は、結核予防会並びに各都道府県の結核予防会支部を窓口として行われています。



DOUBLE-BARRED CROSS SEALS 2025 † JAPAN ANTI-TUBERCULOSIS ASSOCIATION Designed by Toru Asai



複十字シール みんなの力で結核や肺がんをなくすために イラストレーション・グラフィックデザイン：あさいとある † 公益財団法人結核予防会

お預かりした募金は、結核や肺がん・COPD（慢性閉塞性肺疾患）などの胸の病気の普及啓発、全国の結核予防団体の事業支援、開発途上国の結核対策支援、結核等の調査研究の活動に大切に活用させていただいています。

令和7年度も、皆様のあたたかい善意にささえられ大きな実績を得ることができました。心から感謝申し上げますとともに、今後も変わらないご協力をお願いいたします。

総務課 大澤



胃部検診車両更新のお知らせ



令和7年6月30日に胃部検診車の納車日を無事迎えることが出来ました。この日を迎えるにあたり関係各所の皆様にはご支援、ご協力を賜り心より感謝いたします。

今回更新した検診車は、地域の皆さまがより身近に、より安心して胃がん検診を受けられるよう設計された移動型の医療設備です。最新のデジタルX線装置を搭載しており、高精細な画像により早期の異常も見逃さない精度の高い検査が可能で病院と同等の検査品質をそのまま地域へ届けます。さらに、車内は清潔で明るい快適な検査環境が整えられ、スムーズに検査を受けられるようレイアウトにも細やかな配慮が施されています。

また、地域に寄り添う移動型サービスとして、職場や地域の会場へ直接訪問できるため、忙しい方や高齢の方でも無理なく受診できます。検査後の画像確認や診断はデジタル化により迅速に提供され、受診者の負担を最小限に抑えます。

胃部検診車は、地域の健康づくりを支える頼もしい存在として、誰もが安心して検診を受けられる環境を実現します。



検診課：宮崎 業務課：高野